

## 目標7 快適な生活を支える基盤づくり

### 主要施策 7-1 道路・交通網の整備

#### 1) 道路網の整備

##### ■現状と課題

道路は地域の産業経済の発展だけでなく、私たちの生活と密接に関わり、人や文化などの交流を促すという意味でも、むらづくりの重要な基盤です。本村へのアクセス道路の中で軸となっているのは、九州自動車道と国道445号及び県道33号線等です。

国道445号は、交通量の増加にともない交通事故也多発しているため、未改良区間の早期改良が望まれています。また県道については狭い部分も多く、特に前田地区と境田地区を結ぶ県道小枝深水線の橋梁架け替えが急務となっています。生活道路として重要な役割を果たす村道も集落内の部分については旧来からの道が多く、緊急自動車が進入できる幅員を持たないところもあるため、平常時ばかりでなく災害時においても、交通安全の面から、円滑で安全に通行できる道路の早期整備が望まれています。

##### ■施策の方針

国道、県道の整備拡充を促すとともに、幹線道路を中心とした村道整備を進めることで、安全性や利便性、ユニバーサルデザインに配慮した道路網整備に努めます。

##### ■事業の内容

- 国道の整備促進
- 県道の整備促進
- 村道の拡幅、改良整備
- 村道における交通安全施設整備
- 集落道路の拡幅、改良整備



## 2) 交通網の整備

### ■現状と課題

本村における公共交通機関は、くま川鉄道、産交バスの路線バスがあります。主に通勤や通学、自家用車を利用できない高齢者に利用されていますが、年々利用客が減少しているのが現状です。

村内小、中学校の遠方通学者の交通手段としては、スクールバスを運行することで、その交通手段の確保が図られています。

地域内での交通格差は解消されていますが、利用者数も少ないことから、公共交通機関と連携した新たな交通体系を築くなど、より利用が期待できる環境をつくることで、生活路線としてのバス路線の維持を図ることが必要です。

### ■施策の方針

人や環境にやさしい交通体系の実現を目指し、高齢者や子どもの移動手段の確保を図るなど、住民のニーズにあった路線バスの運行に努めます。

地域における公共交通の重要性を周知し、関係機関と積極的に連携することで、利便性の向上に努めます。

### ■事業の内容

- 地域公共交通の活性化
- 産交バスとの連携
- スクールバス運行の充実



## 主要施策 7-2 情報通信網の整備

### 1) 地域情報化の推進

#### ■現状と課題

情報通信技術（ICT）の進歩は、世界的規模で社会・経済活動に大きな変化をもたらし、日常の住民生活にも情報通信技術の活用が不可欠になっています。

本村では、情報提供の手段として、告知放送システムやインターネットのホームページなどを活用していますが、これからのデジタル化の時代に対応した環境の整備がさらに必要です。

各種行政情報システムの電算化並びに業務の統合整備により、住民サービスの向上、行政事務の効率化に一定の成果が得られていますが、さらなる高度情報化に対応した人材の確保、個人情報等の取扱いなど、新たな課題への対応が必要です。

#### ■施策の方針

高速・大容量の情報通信網を活用した多種多様な情報の提供やコミュニケーションが可能となる環境整備に努める一方で、保持する情報の管理など課題の解消に努めます。

#### ■事業の内容

- デジタル化に対応した各種情報手段の拡充
- 高度情報化に対応した人材の育成・確保
- 事務の効率化を目指した電算化の推進
- セキュリティーポリシーに基づく情報保護の徹底

